

京都子ども文化会館あり方懇談会（第3回）会議録

日時	平成30年8月30日（木）15時から16時30分まで	
場所	職員会館かもがわ第1会議室	
出席	委員	勝間喜一郎委員，上林研二委員，日下部潔委員，橘敦子委員，前野芳子委員，真山達志委員，吉澤健吉委員
	オブザーバー	上京区役所
次第	<p><議事></p> <p>◇ 議題</p> <ol style="list-style-type: none">追加調査の結果について<ul style="list-style-type: none">アンケート調査結果利用団体の所在地第1回・第2回の議論の整理について意見交換	

1 追加調査の結果について

事務局から資料1，2を用いて、追加調査結果について説明

2 第1回・第2回の議論の整理について

事務局から資料3を用いて、第1回・第2回の議論の整理について説明

合わせて、参考資料を用いて、京都子ども文化会館以外の子ども・若者に係る市内の施設で実施する文化事業の一例について説明

3 意見交換

○ 日下部委員

紫野高校の校長に伺ったところでは、紫野高校では900人の生徒がおり、人権学習や吹奏楽部の発表で子ども文化会館を利用しています。理想は1000人規模の施設というところはあるが、リーズナブルであり、近隣にあること、入口の広いところに自転車を止められることから利用しているとのことでした。

一方で、文化祭におけるダンスの発表を、今までは学校のグラウンドで実施していたところ、収容人数、施設面及び天候面の理由から府立体育館を使うようになったということです。

学校行事や部活動において、子ども文化会館も選択肢としてありつつ、収容人数や天候への対応、経済的な面を考慮して利用施設を選択している状況です。

開館当時には選択肢が少なかったものが、今はたくさんあるということで、老朽化や収容人数の問題もあって使いにくくなっているのではないかと思います。

また、小中学校の利用という点については、生徒指導上の問題や交通費の面で移動

して行事を行うことが困難であったりするために、夏の暑さ対策などの問題点はありませんが、学校の体育館を利用しています。

こうしたことを考えると、平日の昼間に学校行事でこども文化会館を利用するというのは難しいのではないかと感じています。

○ 勝間委員

夏は暑いけれども、主に費用面の問題と、学校内でやるということで勝手によいということから、ほとんどの府立高校では体育館でやっていると思います。

○ 上林委員

資料2を見せていただいて、上京区の25団体をトップに、北区、左京区、中京区あるいは右京区といったところが利用されているので、上京区の住民として見ると非常に満足すべき結果となっていると思っています。開設した当時のことを考えても、府全域から利用があるとは思ってなくて、近隣行政区が使ったらよいという考えだったのではないのでしょうか。

市南部からの利用が少ない理由については、同様の施設ができていることが挙げられると思います。府下の市町村についても、それぞれで良い施設を整備してきていることを考えると、この地域別の数字については良い数字であると考えています。

○ 勝間委員

資料2は、市の施設としては確かに良い数字だなと思いますが、府の施設としてはどうか、という気がします。

○ 上林委員

府としても、府下全域から利用してくれないと困るという思いで整備したのではないような気がするのですが、それは当時の人に聞いてもらわないとわかりません。

上京区の住民としては、子どものための大事な施設ですから、何とか存続してほしいとは思いますが、そのための強い理由がないのも事実です。

○ 真山会長

立地条件等から考えると、府内あるいは市内全域から大勢の人が来るというのは、最初から難しいというのはあると思います。開設当時の関係者・担当者がどういう思いであったかはわかりませんが、府の施設であるということを一一般論として客観的に言えば、本来は府内全域にサービスを提供するという趣旨だろうと思います。

他に良い土地がなかったということもあったのでしようけれど、そうした立地的なものがあることで、結果的に地元中心の利用にならざるを得なかったのではいしょう。

○ 日下部委員

私にとっては、市電が置いてあったところからの思い出があり、非常に愛着がある場所ですが、今の子ども達にとってこども文化会館が愛着のあるものなのかと考えると、

時代の移り変わりとともに変わってきているのかなと思います。

会館が普段から子どもがいる場所になっていけばいいのでしょうかけれど、今は児童館など他の居場所も増えている。子どもが常にいる場所であれば、子どものために改装してということも思いますが、そういう時代の流れということも考えたほうがよいと思います。

上林委員の、施設を存続してほしいという地元としての意見もすごくよくわかります。一方で、年間経費が大きくかかっています。その経費を上手に文化的な事業に使っていくという形を今後に向けて考えていただければと思います。

○ 前野委員

今まで2回の懇談会では、改修や建て替えによって、現状の施設を維持していくという方向性の中での議論が中心だったと記憶しています。うちの子どもが使っていて思い出があるとか、子どもが遊びに行くと楽しんでいるからなくさないでくれとか、次世代を担うものを育成するためには是非こういうものを大事にするべきだという感覚的な話からすると、建て替えという考えもあるかもしれません。しかし、今回の調査結果で示された、近隣の団体の利用に偏っている実情を踏まえて、改修等のために府民の税金を使うことに賛同を得られるような理屈が必要だということだと思いますから、利用状況や利用者の声など、現状をきちんと見て、施設を維持していくという方向性が本当に良い選択になるのか、冷静に考えないといけないと思います。

この調査結果からは、このまま施設を維持してもあまり将来は明るくない、という答えが見えるように個人としては思います。この懇談会で誰からも受け入れられやすい結論は出せないのではないかという思いが強くなっています。

将来を担う子どもなどのために役に立つようにということは尊重しつつ、できるだけ広い視野で方向性を考えていくべきだと思います。

担当部署も、子どもや青少年と限定してしまうと、取組の枠が決まってしまう。例えば、観光部局のようなところも参加すれば、海外の子どもとの国際交流施設など、別の視点が出てくるのではないのでしょうか。

○ 上林委員

こども文化会館が仮になくなった場合に、他の施設のネットワークの中でちゃんとやっていけるのかという点について議論をしてもらう必要があると思います。懇談会は終わったとしても、引き続きそういう議論を通じて、子どもたちの文化活動は決して後退させないという枠組の中で今後の方向性を見出していただけたらよいと思います。

○ 真山会長

前野委員と上林委員のお話では、まとめに入っているような印象ですが、もともとこの懇談会は、廃止又は存続すべしというような提言をまとめるという性格のものではなく、方向性を考えるうえでの視点や、考慮すべき事柄を述べるに留まるものだと思います。

仮に廃止するという事になった場合には、こども文化会館がなくなることによる影響へのフォローについての言及が必要であるとか、存続するという事になった場合に、府民全体が納得できるためには、こんな説明が必要であるとかいう、府市が結論を出すうえでの留意事項を指摘することになると思っています。

ですから、今後の方向性のようなことまで意識した議論は必要ないのではと思います。

○ 前野委員

そうすると、これまでのこども文化会館の歴史・取組を踏まえて、子どもたちあるいは次世代を担う人たちを育むような役割を承継していただきたい、ということは懇談会として言っていくべきことかと思えます。

この懇談会後の第2ステージの会議で、できるだけ広い視野で、もう少し自由に、範囲を広げて考えてみたらどうかと思えます。

色々な経験を持った、色々なセクションの人たちから、子どもたちのために何が重要かという意見を聞いて将来像を描いてから、この建物を存続するのか、いつそのこと廃止するのか、という話をしてもよいのではないかと思えます。

○ 真山会長

今のご意見で考えると、この問題は、こども文化会館という箱物をどうするかということが中心ですが、会館が果たしてきた機能・役割を考えると、そもそも子どもや青少年を中心とした文化というものを府や市がどう考えるのかということをしつかり確立しておかないと、存続しようが廃止しようが問題が起こってくるということですね。

○ 勝間委員

資料1の「今後どのような条件が揃えば再び戻る可能性があるのか」の中に、「駐車場が整備され」等とありますが、地下に駐車場を整備したらどれくらいかかるのでしょうか。

○ 真山会長

建て替えの場合の20数億円の倍くらいはかかるのではないのでしょうか。場所が場所ですから、発掘調査なども必要になると思えます。

そういう意味では、交通の便を中心として、地元周辺地域の方以外の利用の利便性を高めようと思うと、相当の投資をしないと条件整備ができないということになるのがこの施設の運命的な弱点なのだと思います。

○ 上林委員

この施設の努力だけでは無理なのだと思います。それほど不便な場所だとは思いませんが、いずれにしても、土地が置かれている条件というのは変えられないので、そこを議論してもしかたがありません。

○ 真山会長

つまり、「条件を良くしなさいということが言えない」ということを文章化しなくてはいけないのだと思います。それを一定の前提条件として議論せざるをえないということでしょう。

○ 前野委員

交通の便が悪いということを第一の欠点としてはいけないと思います。何があるのか、何をするのか、何を目的に人は集まってくるのかという本質をきちんと明確にして第一歩を踏み出さないといけないと思います。

今後、どのような組織で検討されるのかわかりませんが、この点はお伝えしておきたいと思います。

○ 上林委員

この施設は良い面もたくさん持っています。例えば、バレエをするのに非常に適している。また、ブラスバンドなどで多くの人が舞台に上がる催しに適している。

フィギュアスケートなど、バレエの素養があったらよいなと思われることが話題になっているのを見聞きすると、かつて子どもたちがバレエを習うのに喜々としたような時代がもう一度来てもいいのではないかと思います。こども文化会館が、京都市内あるいは府内のバレエを愛好する人たちの宝となってくれるといいなと思います。

施設の今後がどうあれ、この施設が持っている優れた点は大いにアピールしていくという努力は、引き続き一生懸命やっていただきたい。

○ 真山会長

今回をもって懇談会としてはまとめていきたいと思っていますので、ここからは、どのようにまとめるかという議論をいただきたいと思います。

議論に当たってのたたき台を私からお示しします。この懇談会は、特定の立場や利益を代表してではなく、客観的な観点から議論するものですから、できるだけ客観的なデータを踏まえた議論である必要があります。そういうものと、これまでの委員の皆さんからの意見をまとめるとどうなるか、ということだと考えています。

まず、京都こども文化会館が果たしてきた役割についてです。

開館以来、青少年が芸術文化を鑑賞し、創造・発表する場として、あるいは、絵画、書道、合唱などのこども文化教室などにより青少年の健全育成のために大きな役割を果たしてきたということについては、委員の皆さん異論ないところかと思います。

しかし、現在の場所で再投資をして建て替えや大規模改修をして施設を継続することについて、府民・市民の理解が得られるのかどうか、ということが問題になります。

資料3ページの1(3)にあるように、開設後35年以上経過して施設、設備が老朽化しているうえ、耐震性が不足しており、安全面での問題もあります。その点で、

施設の利用を継続する場合には、大規模改修などの投資が避けて通れない、投資をしない限りは現状維持もできないというのが前提条件になっています。

また、資料3ページの1(2)で述べているように、子どもの数が減っている、さらには人口減少という時代になっており、開館当時に比べると社会経済情勢が相当変わってきています。その反面で、京都市内を中心に様々な文化施設が整備されており、類似又は競合する施設が増えています。そのことがこども文化会館の利用を低下させることにもつながっていると思います。

加えて、資料1にあるように、利用者数の減少と合わせて、利用している人が地域の人、団体に固定化しているという現実があります。この背景には、交通の便の問題もありますし、類似施設が他にできていることも影響していると思われます。

これらのことから、府の施設という観点で見たときに、広域利用ということが実現できていないということも検討するうえでの課題になると思います。

それから、資料3ページの2(1)にあるように、利用者増加の取組について色々と検討をしてきました。

検討にあたり、アンケートも取りましたが、利用しなくなった人の意見を見ると、交通の便や駐車場を問題にしています。また、ホールの規模が催しに合わないという理由が挙げられていますので、今の施設を改修したら利用者が戻ってくるということは見込めないと思われます。この点で、改修等による利用者の増大もかなり厳しいと考えるべきかと思えます。

さらに、資料4ページにあるように、利用者を増やすために、会館自身も自助努力、経営努力をしています。これは本当に頭が下る思いです。しかしながら、結果を見ると、利用者増の可能性は低いと感じられます。

これらのことから、将来的には利用者は更に減っていくということも事実として捉えておかなければいけないように思います。

こうしたことを踏まえ、私の考え方としては、残念なことですが、「現在地で、今後、多額の税金をかけて大規模改修や施設建替を行うことに多くの府民・市民の理解を得るのは難しいのではないか」ということを示さざるを得ないと考えています。

大きな成果を上げてきたのだから、そこにお金をかけるのはやむをえないと簡単には認めてもらえないだろうというのが正直な考えです。

もう一点、現に利用されている団体等もありますので、仮に施設を継続しないということになった場合に配慮すべきことについて、懇談会としての意見をまとめておく必要があると思います。

資料3ページの2(1)のアンケート調査結果を見ると、特にバレエを中心にこの施設は使いやすいということなので、高い評価を得ているバレエのための利用を近隣でカバーできるのかということも検討しながら結論を出さないといけないという留意点を挙げる必要があると思います。

また、子どもの芸術創造・発表の場であるというのがこども文化会館の主な機能ですが、実際には子ども以外の利用も4割くらいあります。子ども以外の利用者の今後の利用ということも配慮していかないとはいけません。

これらの点についての検証・検討をして会館の方向性を考えていくことが必要であ

るということは書いておかななくてはいけないと思います。

一方で、第1回の資料の8ページ及び第2回の資料の3ページにあるように、開館当初に比べ、府や市の文化会館やロームシアターのような利便性の高い施設が整備されてきています。

このように競合施設が増えているのですが、利用料金などの面を見ると、こども文化会館と比べてそれほど大きな差はありません。言い方は悪いかもしれませんが、文化ホール・会館の市場における競争ということを考えたとき、こども文化会館は劣勢に置かれているということも資料から言えると思います。

こうしたことを踏まえ、「仮に施設を継続しないとする場合は、現在の施設利用者に配慮しつつ、この間、充実されてきた既存の社会資源を最大限活用し、引き続き、子どもたちの文化・芸術の振興に努めることを望む」という懇談会からのお願いといったものも、入れておく必要があると思います。

今、申し上げた二点を中心にまとめたらどうかと私としては思っています。

先ほども申し上げたように、存続すべし、廃止すべしということは言うつもりはありません。しかし、冒頭に「理解を得るのは難しい」というので、廃止すべきというトーンにならざるをえないのが正直なところです。

しかしながら、それで終わりでは懇談会としては一面的すぎると思いますので、一方で、世の中金銭的な尺度だけで動いているのではないということも触れておきたいというのが二点目の趣旨です。

皆さんの意見を伺いたいと思います。

○ 上林委員

懇談会でよかったです。何か結論を出すべき会議だったとしたら、胃が痛くなります。いずれの方向を選ぶにしても大変なことですよ、ということで私は納得しました。

○ 真山会長

ありがとうございます。どの方向性に向かうにしても困難は伴いますが、子どもの芸術文化を取り巻く環境がより良くなっていくようにという視点が必要だと思います。

○ 日下部委員

会長が言っていたように、今の施設に限定せずに検討するという事だと思います。

子どもの文化という視点で、府市にひとつになっていただきたい。更なる協調のもと、今後の文化振興にとって有意義なことを考えていただければいいのかなと思います。

○ 吉澤委員

会長がおっしゃったような理由があったのだと思いますが、利用者が半減までしてしまうと行き過ぎだし、経営的に厳しいと思います。

子どもたちがみんなお世話になって、個人的には残してほしい思いはあるのですが。

○ 真山会長

利用者を増やすための努力をしていないのであれば、やって伸びる可能性があるのですが、会館の多大な努力にもかかわらず結果に結びついていないところがあるのは、努力だけではどうにもならない条件的な部分があるのだと思います。

○ 吉澤委員

市内の他の文化会館は、かつては営業努力不足から利用率が低かったのですが、改善して伸びました。こども文化会館の利用者がなぜ伸びないのか。残念に思っています。

会長がおっしゃったように、厳しい現実を述べるだけではあんまりなので、今後、子ども・青少年育成の施策をしっかりと講じてほしいということはぜひ指摘したらいいと思います。

○ 真山会長

それでは、先ほど申し上げたようなまとめをしていくことで委員のみなさんに了承いただきたいと思います。

なんとなく玉虫色という印象かもしれませんが、懇談会ですので、明確な結論を出すということではなくて、結論を出すうえでの前提条件あるいは留意すべき事柄を明確に指摘することが大事だろうという思いです。

最終的に府や市の決断に任せるわけで、いろいろな立場からの意見を述べたということにならざるを得ないのかと思います。

それでは、先ほど説明したまとめの方向性を踏まえ、私がこの懇談会の報告書を作成するというところで、どういう表現・内容にするかは一任いただけたらと思います。

本日を含め3回の懇談会を開催しました。委員の皆さんには大変お忙しい中、お集まりいただき、いろいろとご意見をいただきました。それを踏まえて、先ほどのようなまとめの方向性ができたと思います。報告書の方向性も定まりましたので、懇談会としてはこれで閉会とさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

○ 磯崎京都府府民生活部副部長

委員の皆様、大変お忙しい中、第1回第2回に続き、本日の第3回にご出席いただきありがとうございました。また、本日は長い時間貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

会長が先ほどおっしゃったとおり、報告書については、会長一任ということになりましたので、会長が報告書をまとめられましたら、それを踏まえ、府市で検討してまいります。

本日は、ありがとうございました。